恍惚七部集

後撰蓑

四

特賣
正札
金參

續猿蓑集巻之上

芭蕉

八九月京にて毎年ごとに行るる
東の方へ下る道おもひ出るあり　沾圃

秋ごろの馬もこの道明識て
問ひ寄ゆくつゝ晩の秋なるべし　馬莧

きぬぎぬ別れ行る月の色　里圃

物餐こゝろ乱て肌寒なる　沾
蕉

渋柿もとゝ[illegible]
孫ゝ跡とゝ　祖父ゝ　債務　莧
服指に結て[illegible]ゝ孫　刀　蕉
煙草きせる　[illegible]の解の紙　沾
孫娘の中ゝ[illegible]一きせ賣たゝて　莧
十里ゝゝ[illegible]孔雀所へ[illegible]　里
笹の葉に小豆煙草　[illegible]　沾
[illegible]ゝ[illegible]の書つけ　蕉

[illegible]ゝ[illegible]
やつゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　里
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　莧
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　蕉
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　沾
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　莧
伊勢の下向に[illegible]ゝ　里
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　沾
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　蕉

禪寺に一日あるふ砌の上　星
椽の角乃きてゝぬ君宛　莧
後せしの半に傳をきゝふゆ　蕉
さゝれ奴姉ゐ寸ゝ内淺　泊
月待ゐ傳ゐ寸前のうちそひ　莧
蘿の葉孔ゐ寸ふさはし　里
ゐれて寸て面寸も格もむくの寸　泊
傳傳きしるかるゝ乃わ孔　蕉

削ゐに寸方なのゐの風　里
ゐ寸ゐに寸のうちれゝ　莧
引立て寸に深出る寸ゐ　蕉
ゐ川と火入ゐ初とゝ　泊
孔寸ゐ孔孔ゐ寸ゐ寸ゐて　莧
淑かしらのうちるかゝふの　里

馬蒐

雁(カリ)の字や掛かして海ろ毛のあるよ　治國

てり茅ふの岸のおもしろさ月　里圃

高宮を雲ちてきんれも秋暮て　蒐

鶴川しかるふやのうくく月潤　治

雲ゆきうちやもあらハ　里

蓮を高いてゆかの洗足

悔さきたりなの一歩のんてなひ　蔓
清水さんてなきりあり　佐
あすさきの茶菓おのゝ氣きうし　里
あたゝりまつゝ国方乃客　蔓
何度もなくてあてゝ紀行迎　佐
風ふかすかるゝ鶴の種の月　里
長沂　秋の佐久佐久て　蔓
雲沂のさいさと歩庭呼片　佐

此さきの伊勢の幸洲のかゝ一義り　里
世義を書まつゝ紀わりあ　蔓
信来も書わりて書きゝ長盤　佐
裏静なる竿尺ノ　保繻　里
雪の行あを雪に掃弱　蔓
書なねあ合点てかゝて行ゝ　佐
手しに長うゝ紀とを中あく　里
之清　新聖のなのゝゝ山や　蔓

汁の実ふとる茄子のも盛て、　佐
あらまほしき麦をさらへ刈てと家　星
ひしに寺の拍園をさまし　蔓
屋のおとゝ乃のあとを掃き　佐
隙うりてまされつゝあり小商　星
早下ーて夜よへ秋阪　蔓
肌入て秋にかゝりし夢の月　佐
影ようちうく花の雫　星

けふ盆を賓の毋死あと向て　蔓
のゝ身てかり物乃元日　佐
垂のまれさ帷子のゝひ和　星
竹て氣味よさ杉菌の風　蔓
花のけ栄式立雑の鐘　佐
野面の土のからくけうの　星

里圃

芭蕉　佐圃

馬莫　佐

里

知恵院の鐘撞りて
ちゝ[illegible]花の色枯わかく
廻の鐘のみきうけなり　星
月剃て宮出[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　蓮
牡若を頼河の龍御[illegible]て　佐
ゆゝこせんの出やすぬの紅　星
華の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の泡ちり　蓮
伊弱[illegible]つゝ綿とりの白　佐

うき旅を賤とつれ立[illegible]る　星
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　寛
宋舟の花の中より[illegible]て　佐
梶の傳へ行きてとり　星
百姓のやりて世[illegible]も家　芦
こゝ[illegible]膳のあゝ[illegible]　佐
責和の波[illegible]おろし　星
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　芦

ヒメドキヤウノイカ
ランジ

砂を高く篠の中乃絡線のあ
るを人々いひちらして　注　里
尖蛙の声ひけて撞木を　芭
一石投　雅乃米　佐
折〳〵を窓月の起て高き　里
仰に加減　乃ちの杉をさ　芭
月高くなることしめなして　佐
おもひのまゝに花に振て石臼　里

手拭を姫をやゐて蛙のさゝ　芭
ゝゝ家のうゝをこちて仕ゝ　佐
花のあと蹄躅のさかりとろい　里
寺のひけゝる　山陰の　まち　芭
冬ゝかりを出ゝ　ゝゝ　ゝり　世の弱　佐
一面　修　て　あゝゝゝ風　里

猿蓑にもれたる霜の松葉かな　芭蕉

なき宮ゆられと静なる岩　支考

水かるゝ池の中よりうゝなりて

篠作ゆまはまをふるゝの　惟然

鶏うあるゝやうてゝの月　蕉

ゆるるとゝ死かゝるゝ秋　考

佐藤

盃さしい一花のて来てさそふ鶯の夏　然
夏の保の癖をけるきり　蕉
聲ゝ寺てゆかしともせたはゆ　考
中国ゝの世の世の世　然
紺はのはなそそやら振舞ふ　蕉
一言相識ゝ共て芝つゆる　考
きさんなる事ふの比の桃枝　然
ゝに門あるみとの月　蕉

紺あ一畑の人のうけ　考
ゝ保光ゝ俵ゝ小鶯　然
尺てゝるゝ紀ゝ年ゝ花の笑ゝ　蕉
茶持ひとゝ世ゝ永きは　考
ゝ風のゝ夏ゝ紀ゝ　然
わゝぶに脈をゝ俵　蕉
枝呼の四保ゝ　考
喧吟ゝさとも世ゝ　然

大せいなはゝ二百年の後　蕉
雪うさぶ　中のそらを　考
まつ社の葉掛の皆　然
風の世を垂れを　の　蕉
酒のりも有のやうふ月見して　考
赤鶏沢を庭に　面　然
ゝゝゝねは鶴のゝろ　蕉
嘉行のとゝまるとゝ　考

ゝゝ蕉をはゝとはゝ松の風　然
大工つゝひの鳥ゝ字　ゆる　蕉
来搗もゝ　ゝて　考
ゝゝゝゝて　の中を　蕉
けあゝゝ活　花のけも　然
鴨の油　のまとゝけ　考

今宵賦

野盤子
支考

今宵は六月十六日のそらもあるかのひなり
あるかの孔明よりけて衣裳の湖水の秋
をもぬくもさるれ光と宵のなりひさ先り
尊畢の席をそなへ老いし敵て
そらもなく人そらしの涼みて野生
ひらけおもあ宮海しかりなりなる人さ
さらん人を與をしるれあ〜稀也我

[illegible]
のくるのまくらひとのなをとはるる四度い保川のまくらの四
三人のをはりなるを[illegible]
まのまくらをそなへてことしいまるる月
さつさつのあいをはりて伊賀のらゆ[illegible]
なを四のを憤をまくらひ俗の渡源らに
[illegible]て賀茂神園の源[illegible]
[illegible]かてやはらよ秋をやまくれ[illegible]

[illegible]
[illegible]ふるさすか懸の納源もらとれる
てやとこと四里の里を壊て家よるる鞋の
駕をやまくれ[illegible]青い巻尻氏をはるる
そして俗あり俗なりて俗よ俗る
らのはとその交のはるれらの巻砂川の
岸よ中行を記とをるうとして保くまい
すこうる所[illegible]味なくして人のあるく
るしー巻まなるるるるかしくくしのさし
もきてはまるるれやくおのるるよ

ろうそくの影よろひておちへ次第
峯て月もかくのよろこびやすして豪奢
比丘尼度も たとえの方こと心さしゆ
きれしき支考
おて関西の比丘おもおのかち
きゝを湖のみ名のやうてきゝを
わうれて竹ヶ山はるそひおろしうゝ
のとこ青丘蓑のことく所を八十こさと
ら原今宵の真宮何をなうゝさ弼
そゝろを解て孫ゝるものあゝを罰盃の秋
この方をのまきんとたゝあれあひぬ

芭蕉

三の月や嵐て所〻次〻和
高丘をゝゝとやく蓬の根先 世外
営い芋ゝの狂おを考入て 小高
たゝき軍義よ反故和也 惟然
月新の雪もちろよる雲の色 支考
きゝあて猪きゝ鶯かよ 芭蕉

猪を移場の和へ追ふかな　翠
山々こゝに名をとゞめ　言
鹿柱ちる面掃よそもむすび鎌　然
寓て立史をちらす　照像　考
おれら夏寿を待ち猪の書　蕉
持御のうちよ夕日さす　翠
平田の葉を荷ふ　たゝと疎　考
秋風ちらす門の花見　然

馬引て旅ひ初ら月の新　言
尾張てつゝしものなるる　蕉
歌好のこと　孔雀あり　翠
四月ちのく襟もよこさ　言
寒風の善信のたもとい　然
家々村へねけらこゝを　考
喰ふ鶯も雪も口きいて　蕉
何その時ら伝よなる　翠

花にさき様に付たるきさき鮎　言
厳こいたる神月明く　　蕉
打あやく蹄先なる川矢木の町　考
除の日和に雪乃気色　然
あつくる手綱をね酒の行ちりし　翠
あきかれの身をさゝぬへあろくる　言
封付し文箱来たる月の影　蕉
そゝろしあるく盆の上落花　考

虫籠一つ四条の屋の河原所　鯨
言ぬ阿尿あくる素一固　翠
御の前に紙を見ゝく脇楼の上　言
大手なる清のこゝんに守帯る　然
盡ちる乾み面扉折しよもて　考
腰うけつゝしてな柳の下　高

續猿蓑集巻之下

春之部　花櫻

温石のあらく布目や花櫻　嵐雪

夏炉時ふに又ふる月の初さくら　其角

朝の紙ぬちの白さや櫻　芭蕉

ちらす迄ものの般ちるのかな　洞木

角ぶれ人まかしやちるのなし　文蛇

花咲て行くゝる軒のやすらひ　酒堂

富貴なる酒屋よあるゝひて文君
うれしきを解のすゝれよ思ひ

酒部屋の琴のきゝ富の花　惟然

賭すゝて傾けりけゝ物　支考

人のきもかく霧ひて桜　治徳

ゝるゝ月や明中の花の山屋　猿雖

七川ゝ花ゝんゝ中ゝ　陽和

ゝる所ゝゝゝゝゝゝゝゝ桜　乙州

咲花をもつゝ老木か　木芝

霞やゝゝゝゝゝゝゝゝ桜　治荷

一の船やゝゝ西ゝ鯛の雲　子珊

蓑虫のゝゝゝゝゝ揺る船　卓袋

田家

碧蘿のゝゝゝゝゝ桜　李里

咲ゝゝゝ花や飯米ゝ十石　桃青

山門の花ちるしるし木の梢より　一桐

なるれば木の根やあらぬ花の蔭　如雪

花ゆえまさきまで仮会庵人を泊　其角

くれやらぬ春なる尾花の里　少年　一流亭

ながめ来る雲の志ぬらん軒の花　卓袋

一日も花のあてもなし鳥の鳴寺　泊園

八重桜京あるものちるらんか　全

芭蕉

蒲稚や林ちらちら土ちらちら　岱雲

ちるの降やいと沼の花の葉ちる船　曲翠

欠波の船よりつくづくなつかし　孤屋

一かぶの杜冊を花葉ちる　尾頭

桃　附柳

真白やくくとのかゆと物　芭蕉

柳さくくこれやちるの柳もちるの花　野水

宇梅のあるひ業かり野老賣　其角
里坊よ雉こそやかくれの花　昌房
投入や梅のわかれの母の涙　良品
海鬼の夜さむれ梅のさかりかな　曽良
あるゝ記羽衣蘭まさし梅花　万乎
蔦宮や梅の陰ふまてしたゝの緑　魚日
ちるゝ梅やさらしうるかあるかり　千川
震所や梅のうちひきこそ蕭　大冊

天神の社に詣て

蕭条
蕭条の庭をとゝ行るや梅の蘚こそ
うれしき花鰹のなりやせちの御　千水
討しきるるよりらり川やなぎ　意之
ちる道を教へちらるゝや古柳　東李由
青柳のきゝれくるはや馬の面　九之
鞭をうけてる春過る梅の影　巴丈

鳥　附魚

[illegible]　其角
[illegible]　史邦
[illegible]　智月
[illegible]　蕉
[illegible]　去来
[illegible]　西堂
[illegible]　傘下
[illegible]　長虹

燕や田をかりかつる馬の糞　野童
巣の中やあをてあの燕　峯年
雀子や姉のもとひ雛の棧　槐市
[illegible]にかなる雀乃子飼ひ　河瓢
切籠や[illegible]の[illegible]　鈞幕
[illegible]

酢の子乳ひすきを[illegible]陽の春　土芳
[illegible]少[illegible]　圃水

きゝ魚の一かとすりや没しあるゝ　子珊
百魚のきゝよりもはるゝ　山蜂

除川よりあらわして
きゝ魚を抜るひゝるゝ　真角

まちうよ
かゝりても落ゝ川せ法やまの
えんとうや松ふつけゝ鐵の函　正秀
まの形やいゝゝれのまるあれん　しけ筋
羽紅

川淀や淀をやまもゝあ一の角　猿雛
雪の面きゝりや去業のもゝ　陶指
嗅ひや梅のゝ紅よらあうまを　車来
黄ゝ峡深のゝ思あゝ　荒葉
堤ゝりゝひ落れまゝれか　馬莫
疑おゝれ土堤の切月や落の袋　拙假
抜ゝゝ形よゝゝれ土方根　乃龍
昇蘭や竺とり山乃柱ゝ　正秀
ゝゝ新名のあひよ肥ゝゝか　夕可

日の影や猫の抓ぬ獨活の芽　一桐

蒲公英や[illegible]　圓蕉

猫恋　附胡蝶

[illegible]　探丸

うよ恋よ[illegible]猫の恋　支考

おまひうま[illegible]　巳百

・白[illegible]

やうやうりて[illegible]動く切籠の影　柳樹

衣[illegible]の[illegible]や[illegible]の[illegible]　惟然

蝶の舞おつる樽よりこぼるる　圓指

風吹よ舞の[illegible]小蝶の[illegible]　ちり羽　立圭

[illegible]て花の坊つき切籠け　雪窓

春鹿

振おろしけり[illegible]の[illegible]の角　沢雄

春耕

姫[illegible]の[illegible]あて[illegible]麻　木芝

苗札や竜猛とよぶ夏月和　山箭
千州乃国きかんぼう人　涯雪

桃　附椿

白桃や きりもゝ花のもゝ　椰葉
金椿きまと蓋なり桃のもゝ　介我
伏見ゆく菓樹の上の雲のむ　雪芝
梅ちくゝ中をゝゆるまに桃のもゝ　水鶏
花さくゝの桃や寿舞妓の脚躍　其角

江東の李由ゝ祖父の懐紙の法ゝ
花のゝし経文殿のちゝ所ゝ仏院の
光明をゝの事を

小服紗よ光をやとゝ陽むけゝ　角上
椿を枯て花の花咲椿ゝ手　琦香
取あけて見るや椿のあとの穴　洞木
ちるを椿なりまゝ孫て見ゝ　野坡

款冬　附躑躅　藤

山吹や垣よ二ゝ蕩一重　閑坊

四家乃人よ鞠て

山吹も散るゝ祭孔雀かな　西堂

城おろしはゝ〻ゝ株や鍬のあと　雪芝

霧晴や稲妻よりくれ芝の花　前口

春月

山の端をちらゝ見なり春孔月　長清　魯町

春夏附　春雪　雑

おしのつゝし草の花うや裏の白　前口

咲きゝ調子合りまよ春のなめ　乃龍

春雨や虎丸あるゝ春ゆくゝゝ　微刀

ちるふかゝ馬子武江の旅庵をまもるゝ附

春雨や枕ゝるゝ山ひゝ　支考

ちるゝ雨や光ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ雨ゝ　挑月

清雨や雨ゝ遅ゝゝゝゝ孔雀　風麦

明けゝゝ雉の春ゝ石乃直　風猛

汐干

のぼり帆の淡路はなれぬ汐干哉　去来

品川に富士の影なき志ほひ哉　廬牧

雑春

出かはりやあるゝれ勧る奉加帳　許六

菴ゐやすゝき刈る桐の苗　風騒

一本この松のそゝろやわか緑　土芳

かけろふや農に膝の撫ちかし　酡力

中来花ちるゝのちゝれや淵治ゝ家　万乎

あさ毎に鶏渋や咽もとや帋れ中　苔蘇

木の芽さへ川雀かく狆やぬけ糸　均水

まどのはや蔦の末の中れ心くら　正秀

こゑの雛きゝゐる角まどの他　仙化

刈るれ中の六なるや四標とり　支浪

三月尽

朧ゝゐたきを負酒賣れ名残ゝ年　支考

茅巵

[illegible]　　四年　武仙

[illegible]　　百歳

[illegible]　　尚白

[illegible]　　螺の貝　　鄙菊

[illegible]　　山峰

[illegible]

[illegible]　　千川

[illegible]

[illegible]　　芭蕉

[illegible]　　其角

[illegible]　　嵐雪

[illegible]　　去来

[illegible]　　士芳

[illegible]　　風曜

[illegible]

[illegible]　　猿雖

夢雲
鄙雪
耕雪
左板
前川
斜嶺
山降
任行

竹マヽ
景示
沾圃
圃角

雲部

郭云

曉の雲をはらひたる峰の湖水のまゝ濁

其角

丈草

暮の雲何を未練なるくおもふ

勇元

蜀魂峰にあれば鳴

支考

鳴ぬの名ゆゑ鳴たる雲

如雪

無の雲ゆゑ雨降

芦女

淀より白帆画になげゝし子規

此あたり雲山の杉原にて
頃れ乃吹しけて鳴りけるとや

郭公かさゝの森や中やどり　沾圃

木　附草花

橙や月にこぼるゝ白木立　陶指

里しの姿かへりぬ茶の木かな　野荻

園中　二句

此中の古木を川に柿の花　此筋

手切のをき木も柿の花ざかり　千川

姫百合や上よりさがる蛛の糸　李龍

野山家之百合

あちこちやてまりをあつる百合花　支考

山きしのみのふれて咲やさゝつゝき　尾頭

冷汁をかくすましより杜若　沾圃

手のとゞかれぬ傍ゞかれし杜若　イセ 宇多都

こゝろ雲や菊よりの花を先さく　拙候

ゝゝゝゝの花奥

昼うれや月をうつもれども花盛　沾圃

夕べや酔てうつもれた窓の花　芭蕉

夕かれや禄ておきてあまるを　嵐蘭

蘭の花おちゝゝ蕊のうる入江汁　猪香

蘭の花に涙さしれの浮り汁　さゝ

蓮のゝゝゝとかゝれ離れ　白雪

雲おるゝ世つゝの蓮の蹴おろん　良品

凡

朝霧のゝゝ紀て涼ゝ　凡の丈　芭蕉

姫蛍ゝゝ神よ入ても書ゝた　至暁

なゝん

蕗れなる膳ゝ牡丹汁　露法

子蕉

京へや子の母の留主中　知七
早乙女を孫にやらんとやの子　閑拙
姉とろ男の持和らぬ蘭小　角月
田植哀まてやろ新の祝ひ也　童巧
一回はくりかへしてやあの子　少拙
星の子ゝ燕拙ろ子蘭ゝ船　支考
蛍
敢き火の烟ふそろくあろろる　許六

三月にまの蛍を見るより　黙蔵
納涼
涼しさや竹拙ゝり蔀はくひ　半残
四花菓や屋菓にもふ夕涼　唯然
宗川の屋より昇一
ちちれ蓮や風ふろろ死新涼　史邦
涼しさや蜑義をその強をろ　重翠
石ぬぐや裏門拙て夕涼ミ　杜年

涼しさや半紙尾振て川の中　万平

漫興三句

彌かけて中に涼しき階子哉　酒堂

涼しさや樣より足をぬぎまゝ　支考

生碎を砕らせてあしろ涼うる　雪芝

常屋おもきて

涼風もあるこゝろのこゝろ　游刀

さそかし実中をぬけゝる涼う船　金

立ゐりく人よまさられてすゝゝ車　去来

黙殺よこゝろ涼しさや石の上　正秀

職人の惟子こゝゝ涼夕ゝ　士芳

涼しさや一定羽織の風あるこゝ　我眉

本涼やもゝひのこゝ西ゝ月さす　里圃

盆前

かゝゝゝゝ照りかゝゝ座の偶　野藜

李盛ゝこゝ世のゝゝゝの暑汁　万平

蓑醫者の笠先やさゝれ
ゆ雲ゝ伝ふる
雲ゆも出ず清て麻冷の暑ふる　正秀

敢葛の間のあつさや椿ばうひ　乙州

蝶さゝる日蓋のつゝ玉庵新　怒風

茨ゆゆ垣も赤ゝ日暑う船　庵弾　素堂

笠のさゝや暑き月にれあつた　我峯

ひつゝ雨をうさゝ足もわて　亦言

積あけて暑さゝやあた雲ゝ面　卓袋

粽なる砲もおのあつさう船　里東

立笠れそ世ゝ川とうやの暑ふる　沾圃

赤のゝ

筍に蝶さゝ岸の岩ふる　可誠

笠作や烟の川ふ庫裏の窓　曲翠

五月雨附夕立

ゝ浜ゝ山ゝ雨ゝ徽雨の中　不玉　也羽

さゝれや蓮の葉乃烟　芭蕉

月見や障子にうれぬ雨だれ　沾圃

夕立やさし一人宿まり白傘　拙假

白雨や蓮の葉ぶくぬくと池の苔　苔蘇

夕すゝやちらしうけるる行の波　曉鳥

伊勢に立傘ひろる宮まゐり　圃水

蟬

白雨や中庵ありて蟬のあり　正秀

うしろ見てとまて峰て出ぬり蟬の音　胡故

森の蟬涼しおかるやつつまれる　乙州

蟬啼やなの獅子宮の苔問ふ　曉鳥

うの川を

池の月や潮うちうちて沖鯛　葉蛤

雑夏

金魚鉢てふの動やせ團うち　杉風

金の嘴ふ夏菜や寺の畑　荊口

夏痩も孫うひの中の出るなり　知真

りに枯るゝいとゝ

きゝ焼や麦わかゝ〳〵角て柳鶯　文鳥

黒き草に氣うきもやゝ園の茶の穂　寫雪

夕園を行くるあるも去るや酒ちゝ　水鴎

おぼろさとゝろ〳〵世を
やゝ〳〵なりひて

魚ゆのゝ幸もゝのゝ乳　佐うゝハ　馬見

梅ゆゝ〳〵筑かゝ〳〵日の面　重翠

澤何ゝ遠ゆ行ゆゝ面のあと　野薑

編半ゝのゝ蓑のゝ〳〵きゝ面　水鷸

雨の劉明を〳〵ゝゝ

ゝゝ形ゝ屋ゝ森のゝ花　笹　芭蕉

粘ゝゝ惟子ゝかゝゝ出ゝ面　惟然

貪飽のゝゝ〳〵ゝゝ〳〵ゝゝ

畑ゝ〳〵ゝゝ〳〵ゝゝ日の

納涼ゝ扇一本ゝて世ゝゝ

惟子乃孫ゝひゝやゝ　銭五百　支考

穂さく部

名月

名月に禁の雲方や田のくもり

名月の花ふるくてて棉畠

くるしさ伊賀の山中みしてて名月の

あこの二句をなしわしていつれも是

いつれも非をしんと付しにけりわ

つくくに月をすれる狼の声を

そそれおのくさ古屋あるつよ如何為

[illegible]園と園位[illegible]
[illegible]葉を[illegible]
[illegible]と墨[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]前ハ寂寞[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

支考評

名月の海より冷う囲蓑う軽　洒堂
[illegible]月や[illegible]
[illegible]月[illegible]　加行
[illegible]　[illegible]

[illegible]川あるいはさしもあひやをひるあの月　賀月
名月や[illegible]の陰を人のゆり　園指
[illegible]月や[illegible]舟より[illegible]やうと客　[illegible]
明るしや[illegible]人[illegible]陰もなし　石玉
中切り[illegible]月[illegible]　配力
名月や[illegible]　[illegible]
[illegible]月や[illegible]人もなし　圓水
[illegible]舟[illegible]乱[illegible]月　山鋒

[illegible]月や[illegible]　風國
名月や四人[illegible]一艘　[illegible]　需笑
老の名[illegible]月も[illegible]　重玄
明月に[illegible]　[illegible]哀[illegible]　泥芹
[illegible]
[illegible]
二[illegible]月[illegible]月[illegible]　支考
[illegible]月[illegible]　空牙
柿の[illegible]月[illegible]　賀真

山ちかきも霧ぬぬ峯の月　宮比

名月や里のみちひのまぶしき　木枝

場に居て月ふんだくや遠機　利合

明月や郭わかれし女中方　冊楓

明るとも何もちろに居の道　野荻

霧入乃客よ[illegible]月ふみ　正秀

信州のちるらの

なをうつて

舟引のをかとうけて月ふんみ　[illegible]

待宵の月に[illegible]や宮[illegible]御　[illegible]

家よりの老女とりの[illegible]文

羽盛り[illegible]

まおうとひとて

姨捨を

[illegible]のちるの月　沾圃

霧おきて月入あやぬ嬢の[illegible]　馬莫

[illegible]月まるるぬ梢小　里東

月影ぬ[illegible]の[illegible]も扉下　牧童

保川の宋玉が所る
紅をさして

川ふかしこの川きもや月のなか　芭蕉
十六夜をわが川うれし園の秋　仝
いさよひい園の月もかすみそめ　猿雖

七夕

こよひもや月の雲のあまの河　惟然
星と会をうたて逢れ朝ぐもり　常雲
船乗の雲ぢ乱れ　東潮

あかつきをいそぐ秋の入江　洒國
船乗の薫姫の園もち　乙州

立秋

栗ぬるや屋ふかしとなれの秋　春川
秋一川や中よ吹ぬ雲　左次

稿子

郭公の花遠ざかる桔梗哉　梅梅
初二日もなほ桔梗のつぼみ　洒友

[illegible]ぬ馬肉の雫かな　澤子

[illegible]の枝のたわむれ　馬莧

一箭を[illegible]　烟雨　烏雲

弓固[illegible]　支浪

贈芭蕉翁

百合を[illegible]　風麦

[illegible]の[illegible]を[illegible]　史邦

枯のたるをたのもしや鶏頭花　万平

鶏頭や庵の[illegible]時[illegible]

鶏頭の家[illegible]　芭蕉

折しも雨[illegible]　至曉

[illegible]　雪之

山人の[illegible]　加賀之白甲　桃妖

風毒[illegible]　杉下

[illegible]

新の[illegible]　田上尼

あさうの遠あてきて植ける　閑指
ふもきはのさうにやもて湯の舟　風麦
朝臣にきられしやや髪帽子　其角

蛍　附烏

さきさきに経ける倩　可南
竈馬や新あの蕊つくばる　小枝
尖の背て胴ふきふる虫のちる　正秀
秋のねや蚤と鬻とをきしす　水鷗
ふの虫や形よ沈今しあの新　杜若

碓舂や何の味はある草の先　探丸
鶺鴒や脚まやはらうのこと　篤京
蓮の実に雑さきん餅の実　示峯
ぬけかゝよりひて死る秋の　文子
屋まに中ゝ浦の苦屋け　馬莫
鶺鴒や光り光ゝ戸門京　氷固
蓼の穂を足あ屋時や峰鶺　支考
若の名死ゝさきて四十雀　芭蕉

秋風

秋の野や二番草とる世話　游刀

雀子乃餌も豆らや秋の風　式之

何かりをかくれ蓑しり秋の風　支考

柳の糸や初さるも秋のかゝり　風国

をのつゝ草の三人を明るかな　圃燕

蜻蛉にちらふ蓑しら　九品

あれしして赤き海苔ほす秋　猿雖

稲妻

稲妻の一条ゝとなし稲の原　少年　一東

稲妻や西ゝの角ゝ海の上　宮比

稲妻の稲つ花ゝ庵の端　土芳

稲妻や闇の方ゝ天住の　芭蕉

木實　附菌

栗の実の落てくれるけ　為有

炭焼に拾柿なのも伝うれ　玄虎

秋の月和らぐ風柿のいろ　酒堂

[illegible]　[illegible]

きり草や姥ゆもぬぎ一盞　作圃

伊勢の山中より何度の
[illegible]を待ひて

松茸や新ものらぬ山の形　惟然

[illegible]

きり草や[illegible]本の[illegible]　芭蕉

楓

後風の塀よりそれこり村あるまふ　小鯉

廉

風すれに[illegible]の廉や風の音　風睡

廉ゆるよ廉ゆるよ廉ゆるよ小　一敵

農業

起[illegible]人さそ迎ひり[illegible]の[illegible]　車扇

木の下に種ゆ[illegible]種[illegible]　買山

[illegible]の中徒よ
[illegible]時の稲　如雪

[illegible]たてゐたる　芭蕉
早稲刈て落つよう[illegible]中百姓　乃龍
山雀のやう[illegible]に鳴　斗從
[illegible]りふさた河ふの鶺鴒[illegible]　支考
一[illegible]の[illegible]中乃[illegible]とり　仝
[illegible]家[illegible]始よあり[illegible]蕎麦の[illegible]　惟然
百[illegible]　[illegible]　本[illegible]
大[illegible]ひて[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]の種　佐國

二十九

蕎麦

[illegible]二百十日も[illegible]　蕎麦
[illegible]の玉牡丹　淵子
蕎麦木綿の[illegible]　支考

題盈扉

[illegible]山[illegible]の家　凡峯
借りかけ[illegible]の[illegible]　[illegible]

暮秋

雁沢や背負て帰る秋の雲　野水

月秋を鼓ちらの糸の恨う船　乙州

月あさやまをを弱ちけちる蕎のいろ　芭蕉

雑稿

又六十　海老にたのもしてて般一ウ　八七

蕨かく死や宮仕修行者　松の軍　之道

あ〳〵寒の降ちのちこあるこ　團古

結る般や立れ附ける秋の雨　畦止

月ぬすびに霧のこちらく勒ル　芭子

ちらあや稲ちの家の英あ〳〵　万キ

柿のちまあ紅燒こちを蕊ん蔦箸　素門

かちこ馬ち宅に骸骨やも　宗波

の笛鼓をちまへて鶴ちる

ちまを畫て鍾馗の像ち

こ家ちりあ〳〵に生家ち

ちあ〳〵れかとハこ死あこ

よ蛙ん中かの髑髏を枕

や〳〵て孫ちよ寒ちちお

かくさるも只との生なを
志めさくしとのかけり
穐の風やうわのかゝろう
露の種
きさき

冬の部

時雨 附 霜

こぬ比の頃の晴月やかる時雨　野坡

志ぐるゝき又松風の只ならん　小枝

けふばかり人も年よれ初時雨　芭蕉

一時雨まつところなく日和哉　露沾

初しぐれ中端の草花黄加減　馬莧

平押よりあるは四ようなる　野明
柴賣やいろく売るれの書遣り　商指
椀賣ともよりあるは物の知れる　空牙
元禄のもてはやし四月の頃　み有
ようらわや境あらうろ一ようれ　鶏口
みよ垂て春炉をぬるは月の　野萩
柿色も日和もかるやうの時の　霧川
ようくしりようれて里を藤付く　里圃

[illegible]
日くれくしてあるれうりれ
沖西の紅日ようりれ月の頃　治圃
ようれ春やかのようれの孫　水鯢
花ようやしふしれとの裏　支考

元禄辛酉ようれ
九月歩み堂ようの園ようを遊
京伝の寿を祝ひ月のうれ
ようけれうちのようれ
いやしもかくようの事も

さらさら時雨の音を聞く庵の屋根
のもるとしらぬ月を展重物のもめ
たくふの月しもあるべき世をかな秋
菓子俳諧てんくをすゝめ
れりなる菓のあるなり　芭蕉
菓の味やこの世の外の長
柚の色やこの世の外の菓の香　其角
菓の氣味ぬるゝ境や霧の中　桃隣
八專のゆふまぐれつまるる菓の露　沾圓
何面の如くしに赤ん菓の枝　帝石

菓子屋の園生を引ける
葉菓の陰土可き孫の琴を弾
きあるべきの琴も柚のちりんを
弾ぜもしらぬ世にもしらぬ
しらし今宵の菓を味ひて
きものつくるかなといふ
宵の菓子にて琴の行
しるにあるべやとて人見竹洞
さくべき琴を送られしより
是成夕月一弦琴の
あるべきあるべきに聽をこあるべ
ぬの志べるあらせて

こうらいとぬ琴や作り初めの事の哀　事堂

草

あれや孫娘が月の透き　曲翠

なに流れく咲や菜かたの水仙　氷固

あれのうれやれや霧の中　惟然

花蓼蟲の趙南のうらぶれ

山家住の集の影よ

一霧もうすくぬる事の水の面　芭蕉

白菊花さえ雨くゆり花　車庸

みく稲の中より川や鳥のあと　土芳

山茶花も落てやうれ枯樹　嘉兵

木蓮　附　冬枯

なるひなり木のあぶちうれ枯の事　作徳

日生さんて江の酣中ひ蓼蓼い　露治

みく川や木の蓼ぶ蓼ぶ蓼の月　惟然

[illegible]より足さしりよりさ　あの事ハ　枳風

なを梅坊宗匠の
[illegible]をしめして

さしりより先　[illegible]　一道（イセ）

枯さて[illegible]　杉風

牛の引返さを枯[illegible]　柳酔

冬枯に[illegible]　乃龍

第一枯の[illegible]　利牛

[illegible]を枯て[illegible]　支考

木かしらや[illegible]　智月

風や背中[illegible]　風仆

木枯や刈田の[illegible]　惟然

[illegible]　麈生

夷講

[illegible]酢賣の袴[illegible]　芭蕉

[illegible]　利合

鳥 附いを

乃めくかあさこて

塵埃よくあなたもなく 俳諧 白雪

退くて壺のこころふ千鳥の事 鶴京

かねらとて庚申中に死魚形 おを

入海や碓の釜に峰千鳥 匂指

蔵(ナコロモ)毛にてくて鴨乃至 芭蕉

くれ鴨を大ふ逆うるけくくれ 年木

教ひのつよ生海鼠ゝ 二人 利雪

くくゆく海月よ変るかなくか 車鹿

くく遠や子持ひあのうに氷 貸水

一堅よくれ京魚や雪の前 杉風

かくくれ川や脇をかくて降雪 拙仮

牡丈魚を河豚の大さくて水上の浮ふ

都の川よのくあるうをかり

冬月 附食

嗜とのやの賣ありくみの月　里圓

あゝ猫のかけ行軒やみの月　丈艾

何とよし霖乃るまてかり猫ぬすま　巾春

ゝ仏やけをやれをこの月夜　支考

理火

理火やゆゑ客の氣あり　芭蕉

佛ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　少年　桃先

自雲ゝ月ゝ　ゝ　ゝ　同木

雪

紙ゝやけ行に檐あり夕月雪　其角

彩ゝゝ月雪ゝすゝ濃の條　人仝

雪あゝゝ心のゝゝゝ　ゝ　谷東

鷄鶏ゝゝゝゝゝゝゝゝ雪　祐甫

雪垣やゝゝゝゝゝ人ゝ雪のゝて　莫平

ゝゝゝゝゝゝ雪ゝゝゝ　支考

行ゝゝ雪ゝ　ゝ　園吟

里びとの手ぶり月枝のかぐら　文子
繁刺を降るあるかぐらのうけ　陽和
伊勢大和ものがたる山雪のた　配方

神樂

おもかるに歳と吟ぜるあるかな　史邦
祈ぎぎくよ

金付やうかたかたの清和　路通
祈ぎあげて千鮭賣をすあるり　馬覓
娵入の門もるとかぎ祈ぎくよ　許六
振を送りうたる鮮かな　作圃

煤掃　附 鯉つり

煤ぎぎや嵐巡の笠稱の中　孫香
煤掃やあるはなかるるとる孤　黄逸
ものうたな儀のかかや蝶入年　来鶴
馬覓

嫁ぬすびとの
煤掃や折ふす一枚疋ぬれ　富知
餅つくや火をかこてゐる男盛　惟然
餅はぬくやあるくるの鶏の
もち搗の手伝ひとなる小供　馬佛

歳暮　附年末　衣配

ぬれ乞ひ迄もはなの市のにぎ　角元
門松やおきてまもるの洗ひ髪　里東

賣石やとゐてもいたんの雪　草士
猿もおよのわりにはの雪　車来
大きや歌子ぬぎ北指ひ　万乎
袴ぬぬ舞のもありとの胃　李由
年の市伊を呼んれ織との　其角
おうちわ尼小豆も市のはなか　正秀
引ぬの一ぬ紙の紙やの雪　荻子
桶の猿のもんあるこの　猿雖

天鵝毛のさゝ[illegible]てきの雪　惟然

濱荻よ筆を殘してゆくの雪

けろを圖司呂みの羽ゝ居より来た

のちちとて伊勢すもまゝて作りかた

いろのゆゝしの雪かゝ[illegible]ひ

ゆゝて今きたる人ときたり

盜人よあゝとおもあり[illegible]の雪　芭蕉

余所よ梅てさんすのおゝ[illegible]の雪　支考

潮に梅行ぬ[illegible]の中　土芳

雪雪ふ[illegible]弱りて[illegible]の中　高山

雪雪ふ[illegible]の拾ゝ[illegible]ぬ[illegible]ふ　桃後

歳暮を来の子ゝ[illegible]きぬ能　山峰

一ゝ[illegible]ゝ峰て鶯ゝ[illegible]除ゝの鶏　利合

雜々

小原見に第を挽ゝ[illegible]ふ　鉄嶺

挽行よ[illegible]見ゝ[illegible]の端　土芳

井の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ふ　李下

[illegible]や伏村の長[illegible]　仙杖
[illegible]しらきの開けや　土龍　圃仙
火蛙よん寢[illegible]時を[illegible]か　雪堂
山陰や猿ら[illegible]風抓く[illegible]向　コ谷
廻板よ人参の根の[illegible]か　作圃
[illegible]川や[illegible]く影の[illegible]新　杉風

釈教

涅槃

涅槃像あ[illegible]よ素[illegible]見[illegible]　伏圃
[illegible]ん命[illegible]般[illegible]の[illegible]　芭蕉
山寺や猫守[illegible]ね[illegible]像　不撤
貪福の[illegible]涅槃像　山鱗

催佛

隆仏や[illegible]ちゝ[illegible]ゝ[illegible]井戸[illegible]　曲翠

家花や御ゝまれて二ゝ月　不王

隆仏や釈迦と提婆を従弟と　之道

竈祭

冷飯もゝなれゝ　蝶まつり　嵐雪

婦子ゝのかゝしやゝゝ課あふ　玄来

隣坊ゝゝゝゝゝゝゝゝ　浪圃

甲戌の夏大津を待をこの

かゝのゝとより消息きゝれりれ

き四里よりて盃會よりとりかけて

宮ゝゝゝゝ梅ゝきゝ蛙の墓ゝ系　芭蕉

悼中年　二句

うゝゝゝゝ麻木の著もゝ[illegible]ゝ　惟然

その歎をきゝぬゝの子を秋の風　支考

ゝゝゝゝ　誰ゝまに筋て

青の苔を稲妻のとゝゝゝのゝ　木芝

[illegible] 稗[illegible]や[illegible]桶の水　支考

法[illegible]海

柚も柿もおろかなれども法[illegible]海　浪圃

臘八

[illegible]てこれを納豆汁　許六

何のあれかのあるじ[illegible]大呼海　如行

雑長

啓示の真如堂にて

善光寺如来開帳の時

[illegible]も哀れ[illegible]ぬ[illegible]

[illegible]二[illegible]けり　去来

[illegible]物や家[illegible]ても在世　知月

[illegible]に門迎向[illegible]富士[illegible]て　乙州

[illegible]に朝の[illegible]　多賀[illegible]

食堂に[illegible]雀　野坡

[illegible]夕[illegible]　支考

旅々部

送別

元禄七年のなつ芭蕉翁の
ゆきをくるとりて

妻ぬるゝ袖のうら世のなみ枕　荷兮

つのぐゝも柿喰ひなるのゝ人　惟然

許六ら
本寿坊におもむく時

旅人のちらるも似よ椎の花　芭蕉

留別

俗の惟然ら宅より　古郷の侍る時

嵐やも　ちる花の草ひこがしら　丈艾

蹴の子の　死まで通る　いのかな　芭蕉

甲斐の国の俗の侍る時
ら　郷の人にかゝるて

手よりて　牛に乗りけるも　苔の花　木節

鶴つ居や　居世を見る　旅の宿　郷人

みへもなく　つる川鶴や　旅の宿　野往

[illegible]の国の知らる時
[illegible]のさらひを立て

[illegible]　地かり　[illegible]　[illegible]

十国[illegible]　小[illegible]　[illegible]　許六

大名の　[illegible]　[illegible]　仝

[illegible]

[illegible]　第[illegible]　[illegible]　第[illegible]

[illegible]　土て　[illegible]　狂衣雛

[illegible]　[illegible]　[illegible]　我鑒

あかるしは手て袖かゆかし乗の馬　史邦

四国の恩さし出し汗ぼの
くるくまりて

文この扇あるけまで秋涼し　亡人　呂丸

我庵つる丸旅の宿く乾　治團

常陸の國にしあひよらぬ所に
折まきてやどり侍んとせしに
そのおもき流石あるよとて宿を
まくさくれまに一夜別時の軒の
下にかりまねし
ぬし　天

秋のかゆる情や森に出豆粥　支考

古川や道をまうけふ松もと　仝

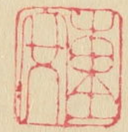
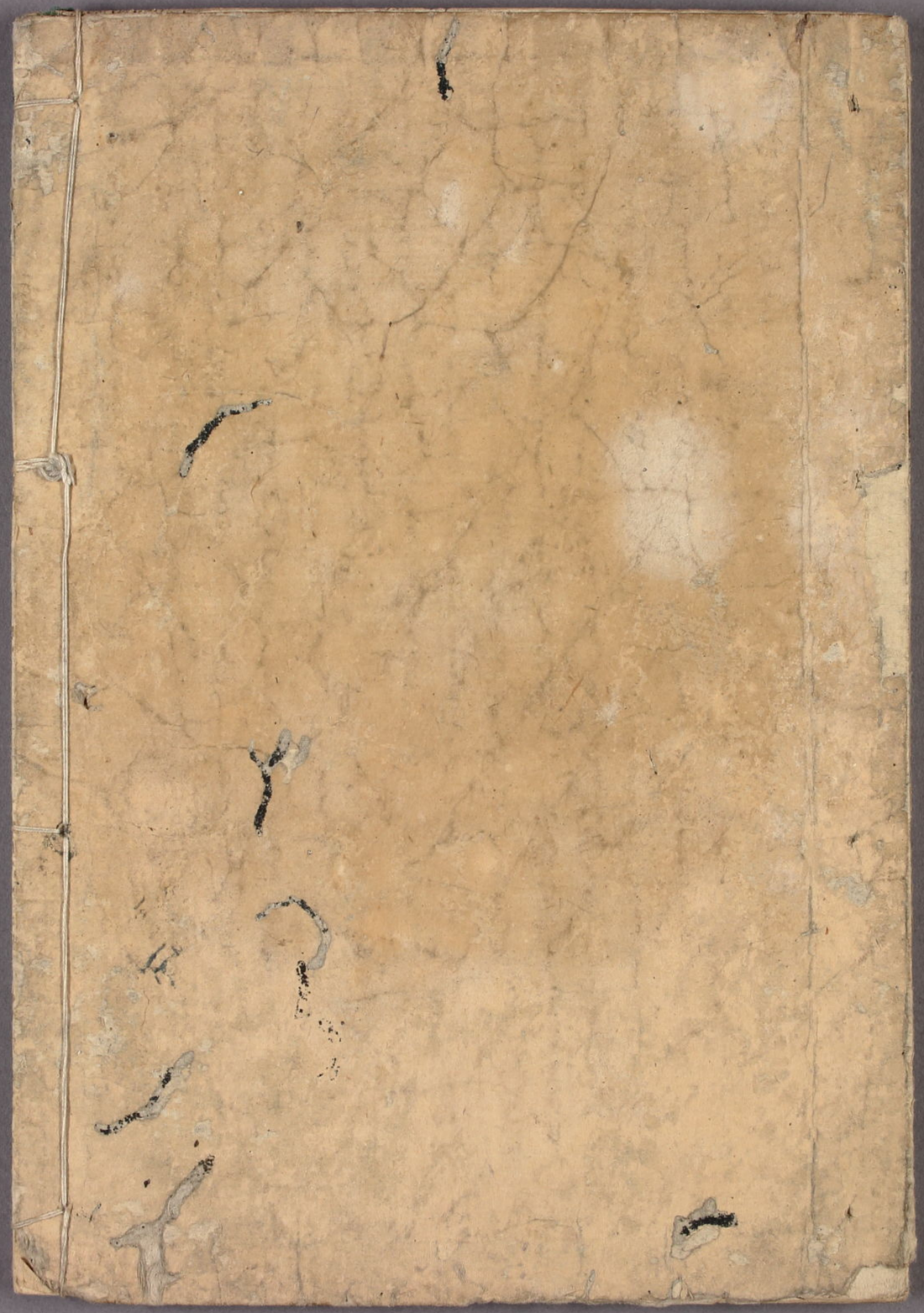
元禄之遠の冬津の家より
武江に赴くとて旅宿
の驛路ちやうに泊りて

宵かりて名をかくのしくたる
しくて地の秋　きさ

續猿蓑を芭蕉翁乃一流乃事に
何人の撰也ふるを去る近代の
俳伊賀と聖翁乃兄杜風ふり
此神より東西を隔て
衆のもち寄事をあらん
世ふ廣むるをいふ紀へり書中
或い是ちけし世入ふれなは
くちはは事稿の事なしふり

一ことばかえすがへすもあらためてこそ
乃書こそ
とふをはじめ

元孫十一寅　かなで
又月吉日　正素子



一冊